

30th
anniversary

公益財団法人 盛岡国際交流協会
設立 30 周年記念誌

30年の歩み



公益財団法人 盛岡国際交流協会

MORIOKA INTERNATIONAL RELATIONS ASSOCIATION

CONTENTS

ごあいさつ

公益財団法人盛岡国際交流協会	理事長 鎌田 英樹	1
----------------	-----------	---

祝 辞

岩手県盛岡市	市長 谷藤 裕明	2
--------	----------	---

公益財団法人岩手県国際交流協会	理事長 堀江 淳	3
-----------------	----------	---

メッセージ

カナダ・ビクトリア市長	マリアンヌ・アルト	4
-------------	-----------	---

台湾・花蓮市長	魏 嘉賢	5
---------	------	---

第 24 回中学生ビクトリア市研修団員	中村 佳矢	6
---------------------	-------	---

30 周年記念式典・記念交流会		7
-----------------	--	---

2012 年度からの歩み		8
--------------	--	---

盛岡×カナダ ビクトリア市		10
---------------	--	----

盛岡×台湾 花蓮市		11
-----------	--	----

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会～ホストタウン事業～		12
--------------------------------------	--	----

各事業活動		13
-------	--	----

協会の概要と設立の経緯		17
-------------	--	----

1992（平成 4）年度から 2011（平成 23）年度までの歩み		18
-----------------------------------	--	----

役員名簿・組織図		19
----------	--	----

DATA（外国人登録者数等）		20
----------------	--	----

ごあいさつ

公益財団法人盛岡国際交流協会

理事長

鎌田 英樹 *Kamata Hideki*



公益財団法人盛岡国際交流協会の運営につきましては、日ごろから格別のご理解とご協力をいただき、心からお礼申し上げます。

この度、協会設立30周年の節目に、これまでの歩みを振り返り、協会の更なる発展のため、記念誌を発行することといたしました。

当協会は、平成4年11月の設立以来、その設立目的である市民の国際理解と国際協力思想の促進を図り、もって「世界に開かれた魅力あるまち・盛岡」の創造に寄与するため、多言語での情報発信やボランティアの育成、各種講座や中学生ビクトリア市研修の開催など、様々な事業を展開してまいりました。

この間、盛岡市や公益財団法人岩手県国際交流協会をはじめとする多くの国際交流団体、市民の皆様の御協力を賜りましたこと、改めまして、ここに深く感謝申し上げる次第であります。

さて、盛岡市における外国人市民の人口は、協会設立当初より比べると800人ほど増加し、現在では1700人を超えました。人口に占める割合は約0.6%と、全国の状況と比較しても高い水準ではありませんが、私たちの日常において、外国人の方々が地域で共に暮らし、また、観光に訪れる風景が、ごく当たり前のものになってきていることを、皆様も感じていらっしゃるかと存じます。

協会設立からの30年という年月は、暮らしの様相も大きく変わるほどの長い時間であり、未知の感染症の出現など、ここ数年を見ても社会情勢は激しく変化し続けております。

こうした中において、当協会は、これからもとどまることのない時代の変化にも柔軟に対応し、真に市民に求められる協会の在り方を常に模索しながら、設立当初の目的に向かって、今後ますます邁進していく所存でございます。

最後になりますが、今後の当協会の活動につきまして、なお一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。あいさつといたします。

祝 辞

岩手県盛岡市

盛岡市長

谷藤 裕明 *Tanifuji Hiroaki*



公益財団法人盛岡国際交流協会設立 30 周年を、心からお祝い申し上げます。また、長年にわたり盛岡市の国際交流の推進役として御活躍いただきました皆様に、厚くお礼申し上げます。

本市では、昭和 60 年のカナダ・ビクトリア市との姉妹都市提携や、平成 5 年のアルペンスキー世界選手権盛岡・雫石大会の開催などを契機に、国際化に対する市民の理解と関心が高まりを見せました。そのような流れを受けて、「世界に開かれた魅力あるまち・盛岡」の創造を願い、平成 4 年に貴協会が設立され、以来 30 年間、次代を担う中学生のビクトリア市研修や異文化交流を目的とした各種講座の開催、ボランティアの育成など様々な事業を通じて、本市の国際交流推進に大きな役割を果たしていただいております。

近年では、令和元年 11 月の台湾・花蓮市との友好交流協定の締結や、東京 2020 オリンピック競技大会でのカナダ国のホストタウン受け入れ、マリ共和国とのホストタウン事業など、貴協会が育ててきた活動に加え、国際交流に携わる関係団体や、市民の皆様の御協力を賜りながら更に大きな成果へとつながっているものと存じており、御尽力をいただきました関係各位に改めて感謝を申し上げます。

さて、本市における外国人市民の状況をみますと、その数は、増加傾向にあり、市内に暮らす外国人市民が、地域でいきいきと安心して暮らせるまちづくり、多文化共生施策の推進は、今後の喫緊の課題として益々重要となっており、貴協会の今後の活動に大いに御期待申し上げます。

結びに、貴協会が本市の国際交流推進の中心となり、今後益々発展されますことを祈念申し上げますとともに、皆様の御健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

祝 辞

公益財団法人岩手県国際交流協会

理事長

堀江 淳 *Horie Atsushi*



公益財団法人盛岡国際交流協会が設立 30 周年を迎えられたこと、心よりお喜び申し上げます。

理事長の鎌田英樹様はじめ会員の皆様方におかれましては、平成 4 年の設立以来、盛岡市、ひいては岩手県の国際交流の推進に多大なるご貢献をいただいておりますことに深く敬意を表する次第です。

また、永年にわたり盛岡市の国際交流の振興にご尽力され、功労者表彰を受賞された皆様に対しまして、心からお祝い申し上げます。

貴協会では、姉妹都市であるカナダ・ビクトリア市や台湾・花蓮市との活発な交流に加え、外国人の方々に日本文化を体験いただいたり、異文化理解、国際理解の様々な講座を開催するなど、市民の国際感覚の涵養に大きく貢献されております。

この 2 年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、国際交流の機会が失われ、当初の計画も変更を余儀なくされ、御苦勞も多かったものと思います。

現在、外国人の入国制限が緩和されてきており、本県においてもインバウンドや外国人就労、外国人留学生等が、今後増加していくものと考えられ、海外との交流も活発に行われていくものと見込まれます。

また、本県におきましても、グローバル化のさらなる進展により、同じ地域の構成員として、日本人県民と外国人県民が、個々の力を発揮し、互いに尊重し合い、共に快適で住み心地のよい岩手を構築していくことが求められております。

どうか、これからも、盛岡市の歴史・文化・食など地域の特性を生かしながら幅広い分野における国際交流・協力活動を展開し、「世界に開かれた魅力あるまち・盛岡」の創造に寄与されますことを祈念するものです。

この設立 30 周年を機に、公益財団法人盛岡国際交流協会の更なる発展を期待いたしますとともに、皆様方のますますのご健勝、ご活躍を心からお祈りいたしまして、お祝いの言葉いたします。

メッセージ

カナダ・ビクトリア市

ビクトリア市長

マリアンヌ・アルト *Marianne Alto*



ビクトリア市長として、公益財団法人盛岡国際交流協会が設立 30 周年を迎えられたことに対し祝辞を述べさせていただき光栄に思います。

ビクトリアと盛岡の姉妹都市交流はビクトリア市にとっても、とても特別なものです。数十年に渡り大切にされてきたパートナーシップは、美しい日本文化を学ぶ有意義な機会をもたらしてくれます。

これらの活動の中心にあるのは、草の根活動を続けている貴協会です。特に、毎年行われている中学生ビクトリア市研修は、ビクトリア市でも有名です。

両市の姉妹都市交流を長年に渡り見てきましたが、最も大きな効果は、私たちの交流から生み出される人と人の友情です。協会の関係者の皆様にとって、姉妹都市交流で得られた友情や思い出は代えがたいものでしょう。

残念ながら、パンデミックにより直接お会いする有意義な交流ができない 2 年間となってしまいましたが、中学生の訪問はオンラインで続いており、そこから十分な学び、笑い、楽しさが生み出されていることをうれしく思います。

改めまして、30 周年おめでとうございます。貴協会の活動と、皆様の寛大さにとても感謝しております。

最後になりますが、姉妹都市交流に関わってくださっている皆様、共に歩んできた素晴らしい 37 年にお祝い申し上げます。そして皆様の御尽力に感謝申し上げます。

As Mayor of the city of Victoria I'm thrilled to extend my congratulations to the Morioka International Relations Association on their 30th anniversary. The twin city relationship between Victoria and Morioka is very special to all of us. For decades our cherished partnership has provided meaningful opportunities for our residents in both cities to learn and gain exposure to the beautiful traditions of Japanese culture. At the heart of these opportunities has been the grass roots efforts of the Morioka International Relations Association for who are best known for coordinating the annual Morioka Junior High School Visits to Victoria.

Over the years what has stood out most for me about the Twin City program is the person to person friendships that form through our work. I know that for everyone involved with MIRA that those friendships and memories are irreplaceable. Its unfortunate that the pandemic has prevented a meaningful in person exchange from happening over the last two years, however, Im thrilled that the students visits have continued through online exchanges filled with plenty of learning, laughter, and fun. Once gain congratulations on your 30th anniversary. We are so thankful for your work and for the generosity of the Morioka International Relations Association. Finally, congratulations to everyone associated with our twin city program on 37 wonderful years of collaboration. Your efforts are greatly appreciated.

メッセージ

台湾・花蓮市

花蓮市長（当時）

魏 嘉賢 *Wei Chia-Hsien*



みなさんこんにちは。花蓮市長の魏嘉賢（ウェイ・ジアシェン）です。

公益財団法人盛岡国際交流協会が設立 30 周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。これは大変素晴らしいことであり、決して簡単に成し遂げられることではないと思います。

花蓮市と盛岡市は盛岡山車のパレードをきっかけに交流が始まりました。私はこれまでに 2 度、花蓮市役所職員と共に「盛岡秋まつり」に参加しましたが、その際、沿道の皆様からの歓迎の熱気と、盛岡市が歴史と文化を重んじていることを強く感じました。また、文化の継承が都市の発展において非常に重要であり、かけがえの無い文化遺産であることも認識いたしました。

花蓮市と盛岡市は 2019 年の 11 月に友好都市となり、2020 年と 2021 年には、両都市の永遠の友情を象徴する友好都市提携記念碑がそれぞれの都市に建立されました。

今後は行政、民間団体を問わず、文化、芸術及びスポーツなどの領域で継続した訪問交流が行われ、互いの理解が一層深まっていくことを期待いたします。

最後に、貴協会が 30 周年を迎えられたことをお祝いし、一層の御発展を祈念申し上げます。

各位朋友大家好，米納桑摳尼雞挖（日文大家好），我是花蓮市長魏嘉賢！
首先，祝賀「盛岡國際交流協會」成立滿 30 週年，
這是多麼令人感佩而且是難能可貴的大事。

花蓮市與盛岡市透過山車遊行開始了交流的契機，
嘉賢兩度帶著公所同仁前往參加「八幡宮山車秋祭慶典」
充分感受到現場群眾夾道歡迎的熱情及城市對於歷史文化的重視，
也印證了文化傳承對於城市發展是相當重要的，是非常可貴的文化資產。

花蓮市與盛岡市在 2019 年 11 月締盟友好城市，
兩地在 2020 年及 2021 年分別打造了紀念兩市友誼的地景藝術裝置，象徵彼此友誼恆久不變

期盼未來無論在政府或民間團體都能在文化、藝術及體育等面向，
持續地交流互訪與合作，讓雙方更加認識彼此，逐步昇華為姊妹城市。
最後，祝福「盛岡國際交流協會」成立滿 30 週年，未來在國家事務上更蓬勃的發展。

メッセージ

平成 29 年度第 24 回中学生ビクトリア市研修団員

中村 佳矢 *Nakamura Kaya*

公益財団法人盛岡国際交流協会 30 周年おめでとうございます。ビクトリア市研修での経験は、私の人生の中で大きなターニングポイントの 1 つです。当時中学生だった私は学校と家の 2 つの世界だけしか知りませんでしたが、ビクトリア市研修に参加したことで想像していた以上に世界は実際に広がっていること、自分は思っていた以上に当たり前で生活していた故郷や自分自身について何も知らないことを身をもって知りました。今は、盛岡を離れ一人暮らしをしていますが、地元を離れて一人で勉強する為に行動できたのは、ビクトリア市研修での経験と仲間との出会いのお陰です。新しい世界に自分から飛び込んでみることで、実際に経験することは、内容や結果に関わらず貴重な財産になり自分を形作ってくれます。これからビクトリア市研修を経験する皆さんにも、素敵な出会いと経験がありますように。



令和 5 年「盛岡市二十歳のつどい」で当時の研修メンバーが集まりました（前列中央が中村さん）

30周年記念式典・記念交流会を開催

記念式典

2022（令和4）年11月14日、おでってホールにて、協会設立30周年を祝し、記念式典を実施しました。多数の賛助会員や関係者の皆様に御参加いただき、大変盛会となりました。

式典では、谷藤裕明盛岡市長、堀江淳岩手県国際交流協会理事長から御祝辞をいただいたほか、姉妹都市カナダ・ビクトリア市のマリアンヌ・アルト市長、友好都市台湾・花蓮市の魏嘉賢市長からお祝いの動画メッセージをいただきました。

記念講演では、新渡戸基金の藤井茂理事長から、「新渡戸稲造にみる国際交流」と題して約90分の講演をいただき、協会の歴史だけではなく、先人が築いてきた国際交流の土台のありがたみを感じることができました。

本協会の目的である「世界に開かれた魅力あるまち・盛岡」の創造のため、協会役員として長く国際交流の推進に貢献された功労者3名を表彰しました。（竹田様は所用により御欠席。）



三浦 宏 様	（元盛岡国際交流協会 理事長）	平成 18（2006）年～平成 30（2018）年
畑中 美耶子 様	（元盛岡国際交流協会 評議員）	平成 14（2002）年～令和 4（2022）年
竹田 孝男 様	（元盛岡国際交流協会 評議員）	平成 26（2014）年～令和 4（2022）年

記念交流会

2023（令和5）年1月21日、盛岡という星でBASE STATIONにて、「（公財）盛岡国際交流協会設立30周年記念交流会—外国籍市民と一緒に学んで・聞いて・遊ぼう！—」と題して、交流会を開催しました。

第1部では、盛岡市都市戦略室から移住定住の施策に関する情報提供、第2部では、京都精華大学前学長のウズビ・サコ氏から「真の多様性社会を目指して」と題して、オンラインで講演をいただきました。第3部では、様々な国から盛岡市へやってきた外国人市民を講師に迎え、それぞれの国のゲームや遊びを通じた交流を行いました。



- タイ：階段と蛇
- ベトナム：オーアングアン
- 台湾：ディアボロ
- カナダ：ジェスチャーゲーム
- 韓国：コンギ
- 日本：紙相撲

盛岡国際交流協会

2012年度からの歩み

■ 被災地での「世界の屋台村」 (2011～2014年)

留学生など外国人市民が参加し、沿岸被災地の皆さんに各国料理を振舞いました。料理の提供のほか、のど自慢大会なども開催しました。

2011年：山田町、2012年：大槌町、
2013年：宮古市、2014年：釜石市



■ ホストタウン事業 (2016年～)

2016年12月にカナダ、2019年8月にマリを相手国とする東京2020オリンピック・パラリンピックのホストタウンとして認定されました。

2019年には、ラグビーカナダチームの来盛時期に合わせて、通訳ボランティアのスキルアップ講座を開催しました。



2012
協会設立 20 周年

2014
公益財団法人に移行 (4月)
Facebook ページ開設

2013
「中学生ビクトリア市研修」 20 回目

2015
ビクトリア市との
姉妹都市提携 30 周年

2016
2020 東京オリンピック・パラリンピックで
カナダを相手国とするホストタウンに決定

2017
「盛岡国際交流協会中期計画」
策定

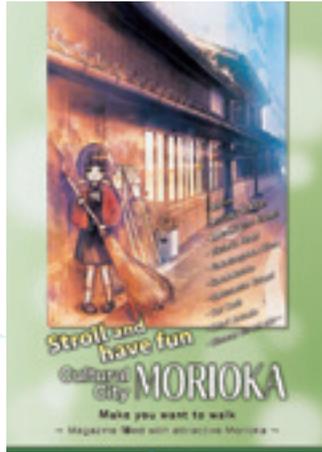
■ 台湾さんさ

台湾観光舞踊応援団一行が来盛、さんさ踊りパレードに出演するのに合わせ、中学生ビクトリア市研修の経験者も横断幕や旗を持ってパレードと一緒に参加しました。(2018年までに14回出演)



■ 多文化共生事業

(2020年)盛岡市と特定非営利活動法人岩手未来機構との協働で制作された冊子「歩いて楽しむ文化の街盛岡」の多言語化(英語・中国語・ベトナム語版)を行いました。(岩手県のNPO等による復興支援事業を活用)



(2021年)盛岡市が実施する「市内在住外国人の実態調査」に協力し、市内在住外国人が抱える問題やニーズの把握を行いました。



<https://www.city.morioka.iwate.jp/kurashi/1033364/1033365/1039144.html>

2018

協会ホームページリニューアル

2019

盛岡市制施行130周年、第1回盛岡国際俳句大会開催
台湾・花蓮市と友好交流協定締結

2020

ビクトリア市との姉妹都市提携35周年

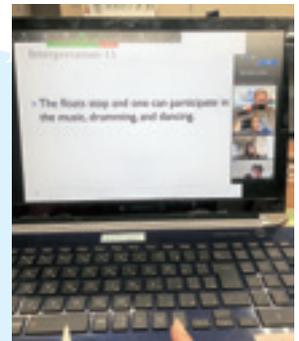
2022

協会設立30周年

2021

■ コロナ禍での事業実施

通訳・翻訳講習会をオンライン(Zoom)で実施しました。(2021年3月、2022年2~3月)



市内在住の外国人市民を講師に迎え、「家庭で作れる」「盛岡でも手に入る食材」をモットーに、4か国の料理(タイ、ネパール、ベトナム、モンゴル)紹介動画をSNSで発信しました。(2021年1月~2月)

【紹介した料理】

タイ：イカカレー炒め他



モンゴル：ひき肉入り揚げパン他



ベトナム：イカの塩炒め



ネパール：バターとナッツ入りおこわ他



例年行っている留学生対象の「ごみの分別」等の講座は中止とし、代替事業として、(公財)岩手県バス協会と協力し、「バスの乗り方」「バスの降り方」動画に英語、中国語の字幕を付け、協会ホームページ上で公開しました。(2021年11月)



盛岡 × カナダ ビクトリア市

盛岡市とカナダ・ビクトリア市の縁 ～太平洋のかけ橋～

カナダ・ビクトリア市との姉妹都市交流の歩み

盛岡市は、昭和60年(1985年)5月23日(カナダ時間)に太田大三盛岡市長(当時)とピーター・ポーレンビクトリア市長(当時)との間で姉妹都市の盟約を交わしました。かつて国際連盟事務次長を務めた盛岡市の生んだ国際人・新渡戸稲造博士(文久2年～昭和8年(1862年～1933年))が、カナダのバンフで行われた太平洋問題調査会議に出席した後、ビクトリア市の「ロイヤル・ジュビリー病院」で客死した縁によるものです。

ビクトリア市との姉妹都市提携をきっかけに多くの市民にとって世界がより身近なものに感じられるようになり、姉妹都市ビクトリア市だけではなく、アジアをはじめ諸外国の多くの都市との交流が一段と活発に行われるようになりました。

このような市民の国際化への意識の高まりが、平成5年(1993年)のアルペンスキー世界選手権盛岡・平石大会を成功に導き、当協会の目的でもある「世界に開かれた魅力あるまち・盛岡」の創造に向けて大きなステップとなりました。



ロイヤル・ジュビリー病院内の新渡戸庭園にある石碑(1986年寄贈)

ビクトリア・盛岡友好のトーテムポール、サトウカエデ

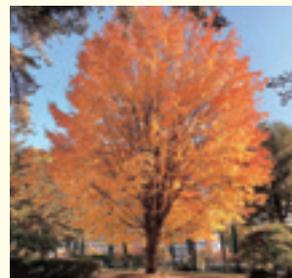
盛岡城跡公園のトーテムポールは、盛岡市とビクトリア市の姉妹都市提携10周年を記念して、平成7年(1995年)6月に盛岡市へ寄贈されました。ビクトリア市民を代表してビクトリア・盛岡友好協会から盛岡市に寄贈されたもので、ビクトリアのロバート・クロス市長一行と多くの盛岡市民の手により建立されました。

一番上にあるイーグル(鷲)は、力・地位・富みを象徴する地位の高い紋章です。鷲がつかんでいる鮭は、環太平洋地域の人々にとって重要な食糧源であるこの魚を称えています。真ん中の像は、訪問者を歓迎する酋長の姿で、太平洋のかけ橋となって世界の平和を願った新渡戸稲造博士の志を象徴しています。一番下にあるのは鮭を抱いた熊です。

サトウカエデの木も、同じく姉妹都市提携10周年を記念して植樹されたものです。



トーテムポール



サトウカエデ

姉妹都市提携30周年

平成27年(2015年)5月、盛岡市とビクトリア市は姉妹都市提携30周年を迎えました。5月には市民訪問団がビクトリア市を訪問し、「ビクトリアデイパレード」に参加しました。盛岡市でも記念事業として、もりおか歴史文化館前にペットボトルで制作したBC州議事堂のイルミネーション点灯や川徳でのカナダ・ビクトリアフェア、30周年を記念した写真展の開催、アイスホッケーチームが来盛し交流試合を行うなど様々な事業が行われました。



ビクトリアデイパレード



ビクトリア市役所で「姉妹都市提携30周年確認書」にサインを交わし、握手をする合縁盛岡市長(右)とヘルプスビクトリア市長(当時)



ペットボトル BC 州議事堂



アイスホッケー交流

姉妹都市提携35周年

盛岡市と当協会を含めた民間国際交流関係団体とが記念事業実行委員会を組織しました。

令和2年(2020年)5月、姉妹都市提携35周年を迎え、市民訪問団がビクトリア市を訪問する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響による、カナダ国への渡航制限や「ビクトリアデイパレード」の中止を受け、残念ながら中止となりました。

事業のほとんどは令和3年度へ延期となったものの、両国の渡航制限等により、相互訪問の実施は困難なことから引き続き中止としました。

代替事業として、これまで文化やスポーツでの交流が主であった姉妹都市交流に、新たに経済分野における交流を構築するきっかけづくりとするべく、5つの事業者が協力いただき、ものづくりや盛岡をテーマとした「経済交流促進動画」を制作しました。



経済交流 PR 動画サムネイル



盛岡市公式 YouTube チャンネル
経済交流促進動画再生リスト

盛岡 × 台湾 花蓮市

盛岡市と台湾・花蓮市の絆 ～友好交流の歩み～

花蓮市ってどんなまち？

花蓮市は台湾の東部に位置し、面積 29.41 平方キロメートル、人口約 10 万 1000 人の都市です。花蓮縣の県庁所在地として行政の中心地であるほか、台湾 4 大港の 1 つである花蓮港や花蓮空港を有する交通の要としての一面もあります。

太平洋と中央山脈に囲まれた自然豊かな美しいまちで、真冬でも最低気温は 15 ～ 16 度と温暖である反面、夏は日差しが強く「台湾で一番太陽に照らされるまち」ともいわれています。

特産品は大理石やバラ石で世界有数の産出量を誇り、市内には大理石のベンチや歩道もあります。台湾随一の景勝地「太魯閣峡谷（たろこけいこく）」への交通拠点でもあることから、多くの観光客が訪れるまちです。



花蓮市の位置

これまでの交流

- 平成12年11月 台北国際旅行博で盛岡山車の関連資料が注目され、交流のきっかけになりました。
- 平成13年 9月 台湾観光協会理事一行が盛岡秋まつり視察のため来盛
- 平成14年11月 盛岡山車が「花蓮観光の日」パレードに参加
- 平成15年 8月 花蓮縣副縣長一行が盛岡さんさ踊り視察のため来盛
- 平成16年 8月 花蓮観光誘致促進団と芸能団が来盛。「盛岡さんさ踊り」に参加
- 平成19年11月 盛岡山車が「2007 温泉フェスティバル・盛岡山車」パレードに参加。沿道を埋めた観客から大歓迎を受ける
- 平成28年11月 盛岡山車が「花蓮温泉祭盛岡山車」パレードに参加
- 平成30年5・6月 市議会議員・市職員有志、盛岡山車推進會、市消防団から花蓮縣へ台湾東部地震義援金を送付
 - 9月 花蓮交流団が来盛。「盛岡秋まつり」に参加
- 令和元年6月 花蓮縣政府訪日盛岡交流団が来盛。花蓮縣長が市内観光施設や福祉施設などを視察
 - 9月 花蓮訪日盛岡交流団が来盛。花蓮市長などが「盛岡秋まつり」に参加
 - 11月 花蓮市と友好交流協定締結
 - 盛岡山車が「太平洋温泉祭花車フェスティバル」パレードに参加したほか、盛岡さんさ踊り・澤目獅子踊りの披露や盛岡りんごフェアを開催
- 令和2年5・6月 花蓮市から新型コロナウイルス感染症対策として、フェイスシールド 30 個と医療用マスク 2500 枚の寄附
 - 11月 友好都市提携 1 周年を記念し、花蓮市内の公園に記念碑を建立
- 令和3年11月 盛岡市内に記念碑建立
- 令和4年 9月 花蓮市一行が来盛。「盛岡秋まつり」に参加
- 令和5年 2月 盛岡市公式訪問団及び盛岡花蓮友好協會が花蓮市を訪問



友好交流協定締結の様子



パレードの様子 2019.11（花蓮市）



パレードの様子 2022.9（盛岡市）

両市に建立された記念碑

盛岡市と台湾・花蓮市が友好都市提携を結んでから 1 周年を迎えたことを記念して、花蓮市では市内の公園内に記念碑を建立しました。「両相好（リャンシャンハオ）」（双方良し）と名付けられた記念碑は、向かい合う盛岡市と花蓮市が抱擁を交わす瞬間を表しており、出会った瞬間の嬉しさと喜びが伝わってくる作品です。

花蓮市では 11 月 26 日に 1 周年と記念碑建立を祝う記念式典が開催され、花蓮市魏市長を始め多くの来賓が参加しました。盛岡市は現地を訪れることはできませんでしたが、オンライン中継の画面を通じて式典に参加し、記念碑の完成を共に祝うことができました。

記念碑完成のお祝いに、盛岡市から花蓮市に贈った盛岡りんごを、花蓮市の魏市長が一口かじって「おいしい！」と伝えてくれた瞬間は、数千キロも離れた海の向こうにいることを忘れさせる、とても印象深いシーンでした。

令和 2 年 11 月に花蓮市内に建立された記念碑に続き、令和 3 年 11 月、盛岡市内にも友好都市提携を記念した記念碑が建立されました。両市の交流のきっかけとなった盛岡山車や、花蓮市の先住民族の模様をデザインした、存在感のある記念碑となっています。



式典オンライン中継の様子



記念碑「両相好」
（銀：盛岡市、白：花蓮市）



記念碑の詳細解説



記念碑（2022 花蓮市来盛時の様子）

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会 ～ホストタウン事業～

本協会は、盛岡市がホストタウンとして行った各競技団体との調印式や様々な交流イベントなどの活動をサポートしました。

ホストタウンとは

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、大会参加国・地域の選手・関係者と地域住民との人的・経済的・文化的な相互交流を図る地方公共団体のことです。

盛岡市は、カナダ・ビクトリア市と姉妹都市であるという絆を基盤に、事前キャンプ誘致のプロモーションを行い、2016年12月カナダのホストタウンとして登録が決定しました。

2019年8月にはマリ共和国のホストタウンとして登録が決まりました。これまでマリ共和国への支援活動に尽力してきた村上一枝さん（「カラ西アフリカ農村自立協会」代表）が、東京盛岡ふるさと会の会員で、岩手県立盛岡第二高等学校の卒業生であるという縁がきっかけとなりました。



2017年

5月に、クライミングのカナダ代表チームが来盛。チームは、IFSCクライミング・ワールドカップボルダリング八王子2017の事前キャンプの実施とオリンピック事前キャンプ地の視察を兼ねて訪問しました。地元クライマーとの交流大会も開催されました。

9月には、水球カナダの常任理事が来盛、事前キャンプの覚書を締結しました。



2018・2019年

2018年6月に水球カナダ女子代表チーム、7～8月には水球カナダ男子代表チームが事前キャンプを行いました。日本代表チームとの親善試合が開催され、多くの市民が観戦しました。また、子どもたち向けの水球教室も開催されました。

2019年9月に、ラグビーカナダセブンズ女子チームが事前キャンプを行いました。

期間中には、小中学校を訪問し、子どもたちと一緒に給食を食べたり、ボールを使ったゲームをして交流しました。

いわぎんスタジアムでは、Japanセブンズ・デベロップメント・スコッドとの親善試合が行われたほか、ラグビークリニックが開催され、子どもたちと触れ合いました。



2020年

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、東京オリンピックの延期が3月に正式決定しました。盛岡市はホストタウンとして受け入れを予定していた各チームとの動画交流を行いました。作成した動画は、盛岡市の公式YouTubeチャンネル「webmorioka」で見ることができます。



2021年

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に合わせて延期となっていた事前合宿が7月に行われました。

ラグビーカナダセブンズ（男女）とマリ共和国柔道代表は、残念ながら来盛できませんでしたが、7月8～20日まで水球カナダ女子が、21～28日までスポーツクライミングカナダが事前合宿を実施しました。自由な外出や市民との直接の交流はできませんでしたが、小学生とのオンライン交流などを行いました。



啓発普及事業

キッズ・レッツ・プレイ

1999年から始まった事業です。市内の幼稚園や保育園を訪問し、外国語での簡単なあいさつのしかたや歌にあわせて体を動かすゲーム、講師の出身国の紹介など、子どもたちが外国語へ興味を持つきっかけ作りをしました。



R2キッズ・レッツ・プレイ

語学講座

英語以外の外国語をはじめて学ぶ人向けに、入門講座を開催しました。これまでに、中国語・スペイン語・ドイツ語・フランス語・韓国語の講座を開催しました。



H28 フランス語講座



H28 スペイン語講座

中学生による国際交流コンテスト

次代を担う中学生の国際交流に対する関心をさらに高めるため、指定したテーマについての作文による第一次審査とスピーチによる第二次審査を実施。スピーチコンテストで選ばれた生徒は中学生ビクトリア市研修に参加しました。



H27 スピーチコンテスト

団体等育成事業

英語通訳講座

英語通訳を志す市民のレベルアップを目的に、プロの通訳者から現場での体験に基づく実践的な通訳技術を学ぶ講座を開催しました。通訳とは何かを学んだり、音声聞いてすぐに通訳する練習を行いました。



H31 英語通訳講座

国際交流事業補助

本市または海外において行う国際交流事業、国際協力事業を組織的、継続的に行う民間団体等の国際交流活動の一層の促進を図るため、補助金交付要綱に基づき、補助金を交付しました。

ボランティア研修会 (2018年～)

ホストタウン事前キャンプ受け入れを見据えて、英語ボランティアの育成と資質向上を図るため、水球カナダの事前キャンプに合わせて研修会を開催しました。また2021・2022年は、災害時の外国人市民の支援を見据えた防災に関する研修会を開催しました。



R3 ボランティア研修会



国際交流事業

世界の屋台村（2008～2013年「アジアの屋台村」）

外国人市民（留学生）による多国籍料理の提供や各国の民俗芸能の披露による母国文化の紹介を通じて、国際相互理解と国際交流を深めました。



R1 世界の屋台村

国際理解講座

主に、盛岡ゆうゆう大学と共催で開催。講師の出身国の文化や食べ物、言語などを紹介していただきました。



H27 国際理解講座

外国人市民との交流イベント（2017年～）

外国人市民との交流の機会として開催。これまで、カーリングやボッチャなどのスポーツ体験や、防災について学ぶ研修などを通じて交流しました。



H29 外国人市民との交流イベント

異文化理解講座

講師の出身国の文化やスポーツを紹介していただいたり、各国の料理を作る講座などを開催しました。

2021年1～2月には、4か国の料理（タイ、ネパール、ベトナム、モンゴル）紹介動画をSNSで発信しました。



H30 異文化理解講座

日本文化体験講座

浴衣の着付けや、和太鼓、茶道、日本料理など日本の文化を外国人市民が体験する講座を開催しました。



H25 着付け



H30 日本料理



R4 空手

姉妹都市等交流促進事業

中学生ビクトリア市研修

中学生ビクトリア市研修は、国際化時代にふさわしい人材育成を目的として、1993（平成5）年度から実施し、2022（令和4）年度に第29回を迎えました。

これまでビクトリア市研修に参加した中学生は総勢373名（2021・2022年は、オンラインによる開催のため、ビクトリア市訪問の実人数は357人）です。また、ビクトリア市から本市に派遣された生徒は、総勢88名です。

※平成10年度（1998年）はビクトリア市の都合により、平成13年度（2001年）は同時多発テロにより中止。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止。令和3・4年度は、渡航を中止し、代替事業を実施しました。

ホスト校での授業体験やホームステイによる生活体験等を通して、国際理解と姉妹都市交流の促進を図りました。



R1 第26回ビクトリア市研修の様子

令和3年度は、Zoomを用いたオンライン研修としました。国際交流スピーチコンテストに参加した生徒10名が団員となり、英会話練習を経て、ビクトリア市役所やビクトリア盛岡友好協会の方々と英語による交流を実施しました。

令和4年度は、国際交流スピーチコンテストに参加した生徒10名のうち6名が団員となり、現地に住む高校生とのオンライン交流や市内宿泊施設での1泊2日の英語合宿を経て、ビクトリア市長とのオンライン表敬を実施しました。



R4 英語合宿の様子



R4 ビクトリア市長とのオンライン表敬の様子

協会の概要と設立の経緯

協会の概要

名 称	公益財団法人盛岡国際交流協会
設 立	1992（平成4）年11月16日
所 在 地	岩手県盛岡市内丸12番2号
基本財産	1億円
目 的	盛岡市の歴史、文化その他の特性を生かしながら、幅広い分野における国際交流・協力活動を展開することにより、市民の国際相互理解と国際協力思想の促進を図り、もって「世界に開かれた魅力あるまち・盛岡」の創造に寄与することを目的とする。

協会設立の経緯

盛岡市では、1985（昭和60）年にカナダ・ビクトリア市と姉妹都市を提携したことや、1988（昭和63）年に「1993年アルペンスキー選手権盛岡・雫石大会」の開催が決定されたことなどをきっかけに、市民の国際交流に対する関心が高まりました。

このような状況を踏まえて、地域レベルの国際交流を市民が主体となって進めていこうと、1992（平成4）年11月16日に、財団法人盛岡国際交流協会を設立しました。

1991(平成3)年 3月27日	盛岡市が盛岡市国際交流懇話会からの提言をもとに、盛岡市国際交流推進指針を作成する。
1992(平成4)年 1月28日	第1回協会設立準備委員会を開催し、盛岡市国際交流推進指針に基づき設立準備委員9人を選任したほか、協会設立の基本案や設立の日程を協議する。
1992(平成4)年 2月21日	第2回協会設立準備委員会を開催し、協会の性格や事業内容などの概要を決定するとともに、発起人9人を選任する。
1992(平成4)年 8月5日	第1回協会設立発起人会を開催し、協会設立趣意書に基づく設立を決定するとともに、設立者代理人に河野逸平氏を選任する。
1992(平成4)年 8月25日	第2回協会設立発起人会を開催し、寄附行為や事業計画、収支予算などを定めるとともに、設立当初の役員と理事長、副理事長、常務理事を選任する。
1992(平成4)年 10月13日	協会設立許可申請書を県に提出する。
1992(平成4)年 11月16日	地域レベルの国際交流を民間主導で進める組織として、財団法人盛岡国際交流協会の設立が県から許可される。

1992(平成4)年度から2011(平成23)年度までの歩み

大きな出来事

協会で開催した主なイベント等

1992(平成4)年	1992(平成4)年11月16日協会設立	
1993(平成5)年	アルペンスキー世界選手権盛岡・犂石大会	「初めての日本語」講座('93~'98) 国際交流市民運動会('93)
1994(平成6)年		中学生ビクトリア市研修('94~)
1995(平成7)年	ビクトリア市との姉妹都市提携10周年	
1997(平成9)年	協会設立5周年	協会設立5周年記念事業 外務省との共催で、記念講演会とパネルディスカッションを開催した。 機関紙「国際交流もりおか」(平成10年3月発行)を市内全戸回覧した。
1998(平成10)年		3か国語生活情報誌('98~) 創刊時は英文と日本語だけだったが、中国語(簡体字)を併記し、3か国語情報誌となった。
1999(平成11)年		キッズ・レッツ・プレイ('99~)
2002(平成14)年	協会設立10周年 協会ホームページ開設	協会設立10周年記念事業 記念式典と記念講演会、交流会を実施。記念式典では、協会設立から役員として運営に貢献された6人に感謝状贈呈を行った。 外国人から募集した「盛岡のこんなところが大好き」写真展を併せて開催。
2003(平成15)年		中学生による国際交流コンテスト('03~) 次世代を担う中学生の国際交流に対する関心を高めようとの年から開催。最優秀賞と優秀賞を受賞した生徒と学校推薦の生徒が「中学生ビクトリア市研修」の団員となった。
2004(平成16)年		日本文化体験講座('04~)
2005(平成17)年	ビクトリア市との姉妹都市提携20周年	
2006(平成18)年		語学入門講座('06~)
2007(平成19)年	協会設立15周年	協会設立15周年記念事業 【第1部】アジアのファッションショー 【第2部】 麵ドタバタ井戸端会議 【第3部】 中学生が見たビクトリア展
2008(平成20)年		アジアの屋台村('08~'13)
2010(平成22)年	ビクトリア市との姉妹都市提携25周年	姉妹都市提携25周年記念事業 市民訪問団の交流、社会人ビクトリア市研修を実施した。
2011(平成23)年	東日本大震災	被災地で「世界の屋台村」実施('11~'14) 山田町で外国の料理の炊き出し、民俗芸能の披露を実施。

役員名簿・組織図

役員名簿

理事長	鎌田 英樹	株式会社IBC岩手放送代表取締役会長
常務理事	太田 真	盛岡市交流推進部長
理事	伊藤 淳之介	一般社団法人盛岡青年会議所顧問
//	鹿糠 敏和	株式会社岩手日報社編集局国際部長
//	越田 晶子	国立大学法人岩手大学学務部国際課長
//	櫻 正伸	公益財団法人盛岡市スポーツ協会専務理事
//	龍澤 正美	学校法人龍澤学館理事長
//	水野 匠	盛岡商工会議所事務局長
//	三輪 明弘	日本貿易振興機構岩手貿易情報センター所長
//	山田 佳奈	公立大学法人岩手県立大学総合政策学部准教授
監事	藤原 学	株式会社岩手銀行 執行役員本店営業部長
//	長澤 晋	盛岡市会計管理者

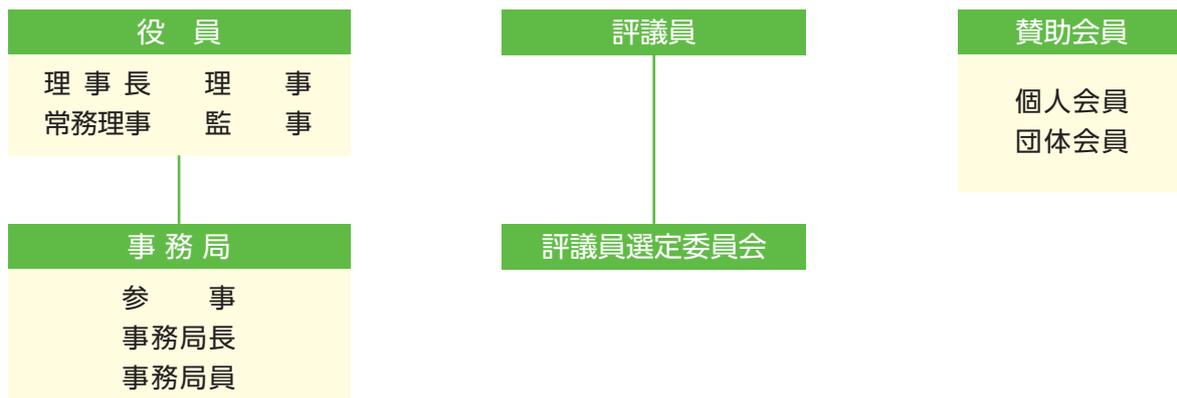
令和4年12月31日現在（五十音順）

評議員名簿

安部 由利子	盛岡ビクトリア友好協会 理事
石橋 浩幸	公益財団法人盛岡観光コンベンション協会 専務理事兼事務局長
尾中 夏美	国立大学法人岩手大学国際教育センター 教授
川村 勲	盛岡花蓮友好協会 事務局長
川村 隆枝	国際ゾンタ 盛岡ゾンタクラブ 会長
高橋 三男	株式会社岩手ホテルアンドリゾート 取締役相談役
千葉 智行	盛岡大学学生部長 文学部教授
中野 剛	玉山地域自治会連絡協議会 会長

令和4年12月31日現在（五十音順）

組織図



資 料

●盛岡市内外国人登録者数

(単位：人)

年 度	H 25	H 26	H 27	H 28	H 29	H 30	R 1	R 2	R 3	R 4
人 数	1,292	1,355	1,416	1,427	1,437	1,469	1,674	1,615	1,504	1,747

*各年 12 月末日現在

(資料：盛岡市市民登録課)



●協会賛助会員（個人・団体）数

年 度	個人会員	団体会員
平成24年度	161 □	19 □
平成25年度	153 □	20 □
平成26年度	126 □	20 □
平成27年度	151 □	19 □
平成28年度	189 □	19 □
平成29年度	128 □	19 □
平成30年度	146 □	20 □
令和元年度	154 □	17 □
令和2年度	141 □	20 □
令和3年度	123 □	18 □
令和4年度	103 □	18 □



(公財) 盛岡国際交流協会キャラクター
「モリーラ」



公益財団法人 盛岡国際交流協会設立 30 周年記念誌

令和 5 年 3 月発行

発 行：公益財団法人盛岡国際交流協会

〒 020-8530 盛岡市内丸 12 番 2 号（盛岡市役所別館内）

TEL 019-626-7524

E-mail : info@mira-morioka.com

印 刷：河北印刷株式会社





Morioka International Relations Association